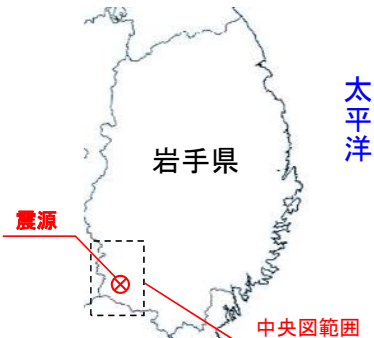


■ 概要

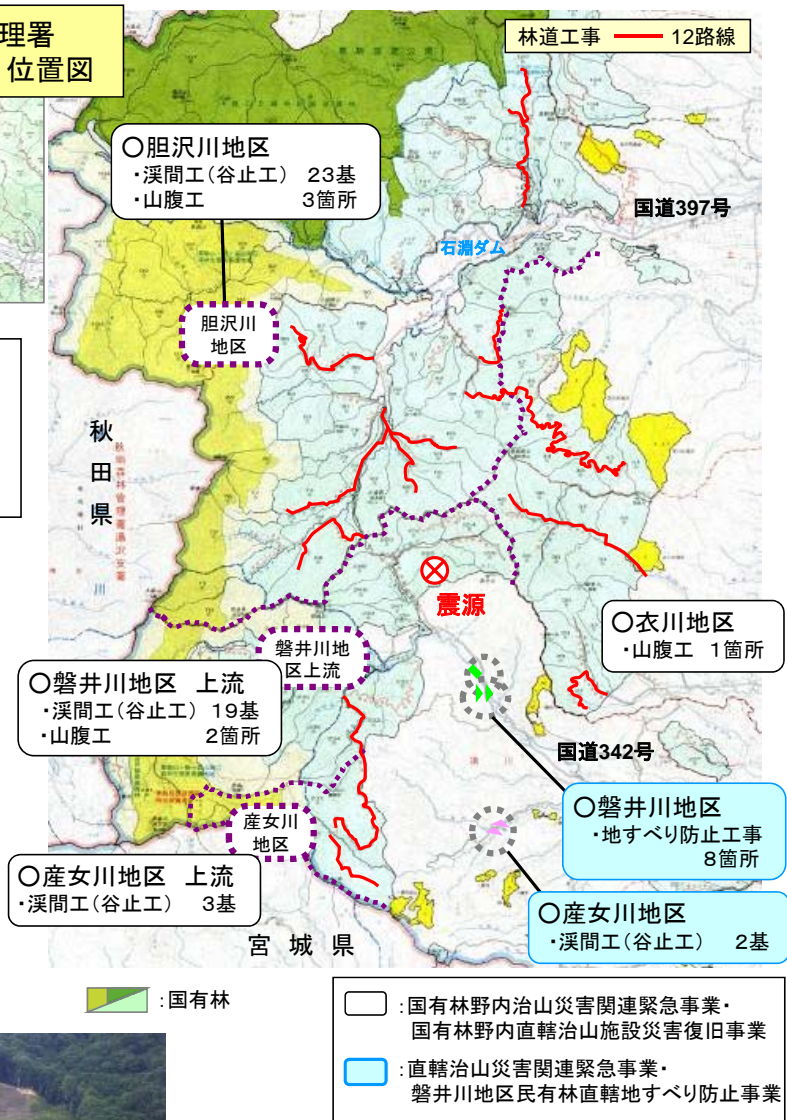
平成20年岩手・宮城内陸地震による被災箇所のうち、平成24年度末までに、国有林治山事業で溪間工45基、山腹工6箇所、民有林直轄地すべり防止事業で溪間工8基、山腹工6箇所、林地災害復旧事業で12路線を整備しました。



岩手南部森林管理署 主要災害復旧箇所 位置図



岩手・宮城内陸地震の記録
2008年6月14日 午前8時43分頃発生
地震の規模 M7.2
最大震度 6強(宮城県栗原市、岩手県奥州市)
震源地 岩手県内陸南部
地震の深さ 約8km
山腹崩壊箇所 1,260箇所
(岩手県内、H20東北森林管理局調べ)



○胆沢川地区
・溪間工(谷止工) 23基
・山腹工 3箇所

胆沢川地区

○磐井川地区 上流
・溪間工(谷止工) 19基
・山腹工 2箇所

磐井川地区上流

○産女川地区 上流
・溪間工(谷止工) 3基

産女川地区

○衣川地区
・山腹工 1箇所

衣川地区

○磐井川地区
・地すべり防止工事 8箇所

磐井川地区

○産女川地区
・溪間工(谷止工) 2基

産女川地区

- : 国有林
- : 国有林野内治山災害関連緊急事業・国有林野内直轄治山施設災害復旧事業
- : 直轄治山災害関連緊急事業・磐井川地区民有林直轄地すべり防止事業

○磐井川地区(市野々原)

地震によって市野々原地区では、磐井川の右岸で大規模な地すべり(約20ha,移動土砂360万m³)が発生し、磐井川を150mに渡って塞ぎました。地すべり土塊は対岸にぶつかって止まりましたが、地すべり地内には大量の不安定土砂や倒木等が発生しました。上流側に形成された土砂ダムが決壊するとこれらの土砂が土石流となって流下し、下流域に甚大な被害を及ぼす危険がありました。

対策工として、地すべり地内の不安定土砂を取り除き、斜面下部で押さえ盛土とし、地すべりを安定化させるとともに森林に復旧させるために緑化を行いました。

岩手・宮城内陸地震3周年 市野々原復旧記念植樹の様子



小学生による植樹の様子



市野々原地区住民による植樹の様子



植樹記念標柱とともに

市野々原地区の災害復旧地において、地震から3年となった平成23年6月14日に地元小学校、地域住民および多くの一関市民にご参加いただき植樹祭を行いました。

被災時の状況



復旧状況





平成24年度 工事完了箇所

平成24年度は、国有林治山事業で1件、民有林直轄地すべり防止事業で2件の工事を実施しました。そのうち、2箇所について、平成24年度に、真湯治山工事、ニゴリ沢第一工区として、引き続き工事を行ないました。

平成24年度工事完了箇所

国有林治山事業



真湯(真湯キャンプ場) [山腹工]

民有林直轄地すべり防止事業



ニゴリ沢第一工区 [地すべり防止工事]



ニゴリ沢第二工区 [地すべり防止工事]

平成25年度 施工予定箇所

平成25年度は、民有林直轄地すべり防止事業で2件の工事を予定しています。(①、②)

① ニゴリ沢第四工区 [地すべり防止工事] 民有林直轄地すべり防止事業

地震や降雨、融雪等によって、斜面全体が地すべりを起こす危険性がある箇所を安定させる工事を行っています。地すべりの上部の土砂を取り除く排土工と、斜面下部で地すべりの動きを抑える押さえ盛土工を組み合わせています。



H25.7.22 撮影

② ニゴリ沢第六工区 [地すべり防止工事] 民有林直轄地すべり防止事業

既設排水トンネル内のライナープレート変形箇所を安定させる工事を予定しています。

